美術資料のグローバルな客体化へ向けて

第 3 グループ：文　貞姫、キャロリン・ジェーン・ワグーラ、コルドゥラ・トライマー

1.　はじめに

美術資料のグローバルな客体化のために 共有、アクセス、協力などを考える。

2.　グローバル時代の美術資料 DB の共有性（文貞姫）

今回の JAL プロジェクトを通じて日本の美術資料の膨大な量と訪れた美術館と研究機関の図書および視覚資料の個別的な特徴が分かった。何よりも本プロジェクトを通じて日本所在の美術資料へのアクセスと活用について検討する機会を得て、また、これと私たち招へい者と日本側の実行委員らの関係者とが互いを深く理解し、認め合うことに繋がったという点で非常に大きな意義を持つと考える。このような点で「美術資料のグローバルな客体化へ向けて」というタイトルを付け、もう一度新しい方向性を考えてみようと思う。

本発表の題名の「グローバル」とは、地域的世界を意味すると同時に資料の交流が活発に起きるコミュニケーションの場所としてその意味をとらえたい。他の見方をすればグローバルとは、人類の普遍的な知識の拡大と流通、という大きなテーマについての議論だが、というよりも日本所在の美術資料というローカルな特性が地域の枠を超えて世界規模で共有される、という肯定的な機会が増えたからと考えるからだ。

1990 年代の情報通信革命を経て、今日の情報はインターネットを通じ自由に web というオンラインの世界で共有されるイメージのようだが、大規模な情報量が流通し行きわたるだけで、正確で深層的な資料追跡やアクセスが非常に制限されていると考える。国境を越えた情報はグローバルな動きの中で消費されているが、各地域の優れた資料の情報は使用者とその地域の特色にともなう制限が伴っていると考えられる。このような現実の中で、グローバル化するインターネット空間は地域的な独自の特性であるローカリズムが世界へと拡がっていく時、美術資料の客体化された新しい空間が作られると考える。

今回のプロジェクト参加者からも分かるように、JAL プロジェクトの企画者が求める美術資料へのあり方の客体化は、専門的なライブラリアン(司書)と資料収集のアーキビスト、そして私のような研究者が共同参加することによって、新しい活用の機会に進むことができる最初の段階だと見ることができる。したがって、グローバルな客体化に向かうという命題の下、3 人で悩んで議論した結果、「共有」「アクセス」「協力」という三点をそれぞれ 3 人で分けて意見を発表しようと思う。まず、筆者はグローバル時代の美術資料データベースの共有性について模索してみた。

まず始めに、美術資料のグローバルな客体化のために「共有」「アクセス」「協力」などを考える必要があると私たちは考えている。現在のグローバルな時代の中でローカリズムの特色を考えると日本の美術資料データベースは独自のローカリズムが強いと考えている。

良いデータベースでも世界の人々には知られていないので、世界に対して発信していくという姿勢が大切だと思っている。世界に発信することは多くの人々にも操作可能なものにすることであり、それが客体化ということではないのであろうか。そのためには、アクセスアップとコラボレーションがもっと密接に影響しあえば良いと思っている。そうすれば自ずと共有性が作られると思っている。

美術資料データベースはまずはコンテンツがあり、次にデータベース化が企画されます。そのデータベースは利用者最優先でなければならない。例えばコンテンツの場合、海外の機関とコンソーシアムを組んだり、海外に存在する日本美術資料データベースとコラボレーションして、プラットホームやインターフェイスを作ってみてはいかがでしょうか？その結果、海外でも利用の可能性が増えて、アクセスもアップするでしょう。客体化を実現した美術資料データベースの重要性を認識すれば共有性が作られていくので、ローカリティを超え、客体化することが出来ると思っている。

3.　オープンと アクセスの再検討（キャロリン・ジェーン・ワグーラ）

ここで、美術資料のグローバルな客体化に向かうには Open Access の意味を見直す必要があると私は提案します。日本ではデジタル化が進んでいても、インターネットで公開しないデータベースがあるので少し驚きました。このデータベースをネットで公開していないので海外でのアクセス不足の問題は解決しません。著作権・法律・または契約の問題もあると思います。でもオープンとアクセスの意味を再検討する事によって日本

の美術資料についての情報を海外に幅広く発信する可能性を高める事ができると思います。しかし意味を見直すには色々な方の参加と共同が必要になると思います。

一般的にはオープンアクセスの意味は誰もがインターネットを通して資料を閲覧できる事です。オープンの単語だけを考えれば自由で制限がないものと同様な意味です。オープンと言うのは、ユーザーとコンテンツについて適用できます。ユーザーのオープン化を考えると利用者または作成者を思い浮かびます。自由な利用とデータの構築ができるには民族的・地域的・国家的な制限がないという意味です。具体的には海外などの研究者と共同でデータベースを構築する事によって、インフォメーションがもっとオープンになると思います。複数の研究者や美術館が協力して一つのデータベースを作る事が必要だと私は思います。例えば浮世絵芸術データベースは日文研が国際浮世絵学会と共に世界の研究者に向けて発信するサイトであり、たくさんの研究者から意見を聞き、コンテンツを改めています。

次にコンテンツのオープン化を見直さなければいけないと思います。データベースに入っている大部分の日本美術資料は所蔵の美術館の作品に限られています。または、国宝・重要文化財などの作品しか画像のイメージを作成しないので、日本文化庁によって価値が高いと指定された物に限られているのが多いです 。これは研究の階層制度を作ってしまうので、例えば民俗芸能などの研究を深めにくいなどの問題になってしまうと思います。そのためデータベースのコンテンツのオープン化を再検討する必要があります。例えば早稲田大学の演劇博物館所蔵品 3D データベースには美術品として認められている人が少ない仮面などを 3D で公開し、日本だけでなく中国・韓国・インドネシア・チベットなどの演劇マスクを公開する事によって地域的、階層的にもオープンになっています。

次にアクセスの再検討についてもっと詳しくお話しします。アクセスというのは接近する事、コンタクトして引き出すことと同様な意味です。「近くなる」という事は重要です。 データベースを公開するだけでアクセスが出来ているという訳ではありません。例えばデータベースの案内や説明、または日本語以外の言語での解説がなければ海外の方にはアクセスが出来づらいと私は思います。この上にブラウズの仕組みも整っていないと一般の方は使いにくいのではないでしょうか？データベースの機能は美術館と同じだと私は思います。一つの美術館でも様々な利用者のニーズに対応しなければならないでしょう。それと同じでデータベースは研究者だけでなく一般の方のことも考えなければなりません。データベースは美術館と同じで日本美術への興味を深める目的で作らないといけないと私は思います。

例えば研究者だけでなく一般の方のニーズを考えて構築されているデータベースはメトロポリタン美術館にあります。Heilbrunn Timeline of Art History はタイムラインを地域的にまたは年代的に選び、メトロポリタン美術館のサイトで誰でもアクセスできます。ここに映されているページは 14 世紀から 16 世紀の日本に関する資料を展示しています。まずは室町時代・桃山時代の社会・政治・美術について簡単に説明し、この 2 世紀での重要な出来事、そしてモトロポリタン美術館が所蔵する室町・桃山時代に作られた作品の画像も展示しています。Related contents 関連コンテンツをクリックすれば同年代の中国や韓国の略年表、東アジアや世界の地図、日本の天皇の一覧表などのリンク集があります。またはこの時代に関する様々な短い論文も公開しています。例えばこの時代の武器と甲冑、中国の仏教彫刻、または李氏朝鮮工芸品などについての物も提案し、国別ではなく、交流があった地域についてのリンクも集め、ユーザーは国家的ではなく、もっと広い範囲でブラウズできる機能を作っています。

4. 探索を簡単にする（コルドゥラ・トライマー）

基礎

今度の研修でやる気のある人を知り合った。彼らが興味深いプロジェクトの中で素晴らしい資料を作っている。MALUI というグループは、博物館、資料館、図書館、大学と業界のあいだの架け橋となって活動していたので、関心しました。

検索

外国語でのサーチが簡単にできるようにインターフェイスを改善することで、利用者が増える。優れた資料をもっとより多くの人々に公開し、利用を促す。

サーチ入力情報

一つのアクセスポイントから、日本全体のデータベースにアクセスができるようなメタサーチシステムを作ると最大限有効に活用できる。漢字とローマ字表記はもちろんのこと、旧漢字や歴史的仮名づかいを現代表記でも検索できるようにする（マッピング）。

標準化ルール

統一したルールに従って、データベースを構築すること。データベース間のセッティングやフォーマットの標準化により情報がより利用しやすくなる。

サーチ出力

世界中一つのアクセスポイントから情報にできるように、メタデータを提供し、そこからそのトピックに関する研究機関を見つけることができるようにする。

国際化

日本国内における日本美術史の研究でさえも、国際的観点に立つことで、さらにその研究を深めることができる（内容、形式、方式、宣伝、等）。海外研究者がプロジェクトに参加すると結果はもっと良くなるはずです。国際雑誌、ソーシャルメディア、会議等に参加すること。得になると教える・日本語以外の言葉で。

前のポイントが明確を示すために「サーチ画面の多言語化」を実現しているサイト二つ紹介します。

まずは、Europeana です。これは前の発表でも出てきました。欧州連合のお金を使って、美術館、図書館と資料館が所蔵するもののデジタル画像が見られます。欧州各国にある機関がデータを提供しています。データ提供機関は、必ずしも所蔵資料のすべてを提供しなくでも良いです。検索結果のデジタル画像をクリエイティブ・コモンズの規則で使えます。今年のライデンにおける日本資料専門家欧州協会（EAJRS, http://eajrs.net/）会議で良く聞いたのは、「やっぱり Europeana のようなものが日本に必要である」ということです。NDL サーチが Europeana と比較的似ていると思われますが、参加する機関が少ないことが残念です。この Europeana では、20 以上ある EU 内で使われている言語で検索できるように、インターフェイスを多言語化しています。

もう一つの例として KVK（Karlsruhe Virtual Catalog　カルスルヘ・ビジュラル・カタログ、http://kvk.bibliothek.kit.edu）があります。世界中の図書館のメタサーチ（横断検索）です。また、どこの図書館の OPAC をサーチしたいかを選択することができる機能もあります。一つ一つの図書館について知りたい場合は、ここにある図書館の名前をクリックすればその図書館のサイトが見られます。すばらしいサイトなのに、残念ながらアジアの図書館は、まだひとつも参加していません。このサイトには、ドイツ語だけでなく、英語によるサーチ画面もあります。

Europeana も　KVK　も、両方の問題は、漢字が入力データにないのと漢字のサーチが無理です。その反面で日本のデータベースにはローマ字の読み方が入っていないから、私たちが利用できるようにデータベースには絶対ローマ字が必要です。

私が専門とする東洋美術史においては、画像がとても大事です。見つけた後画面のデータが電子辞典などで分かるようになればいいと思います。サーチ画面も分かりづらいと困ります。

上記の理由を提言します。サーチ検索での障害を少なくして、優れた資料をもっとより紹介してください。

美術資料のグローバルな客体化へ向けて

Towards a global "objectification" of Japanese art data

文貞姫(MOON, Junghee)
キャロリン ・ ワグーラ(Carolyn WARGULA)
コルドゥラ ・ トライマー(Cordula TREIMER)

目次

1. はじめに
2. グローバル時代の美術資料DBの共有性(文貞姫)
3. オープンと アクセスの再検討(キャロリン・ワグーラ)
4. 探索を簡単にする(コルドゥラ・トライマー)
5. 結び

1. はじめに

美術資料のグローバルな客体化のために
共有、アクセス、協力などを考える。

2. グローバル時代の美術資料DBの共有性(文貞姫)

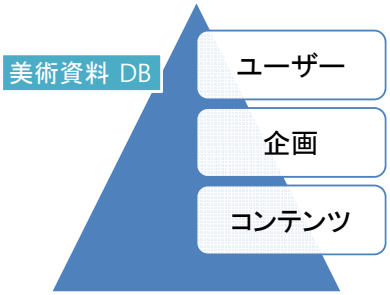
グローバル時代の共有性

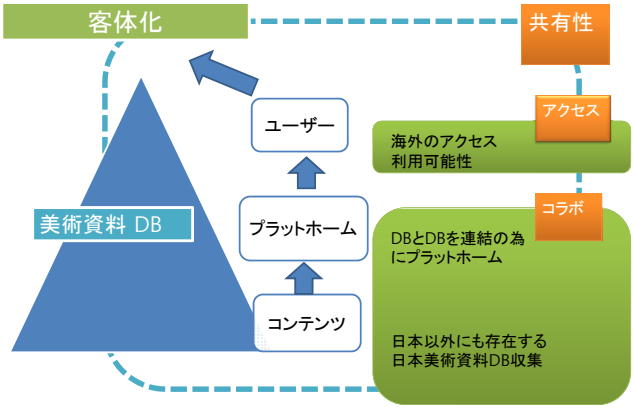
ローカリズム → 世界化

日本
美術資料DB

美術館、
図書館
総合DB

アクセス
＋
コラボ
＝
共有性





3. オープン と アクセスの再検討（キャロリン　ワグーラ）

オープンとアクセスの意味を再検討して、
データベースと日本美術資料の海外での利用者
の範囲を広める

オープン　アクセスとは

オープン アクセスとは誰もがインターネットを通して資料の閲覧ができる

オープンの意味を再検討

◆自由な利用と構築(Open とは民族的・地域的・国家的な制限がない)
◆ユーザーと コンテンツのオープン化

ユーザーのオープン化
- データベースの作成者は美術館・研究所の人に限られている事が多い
- 海外の研究者と共同でデータベースを構築した方がいい

「日文研」の共同的なDB

オープンの意味を再検討

コンテンツのオープン化
- 所蔵作品DBは、美術館の所蔵作品に限られている
- 国宝・重要文化財などに限られている時もある

→日本美術の知識を、より深めることができない

早稲田大学の仮面のデジタル化

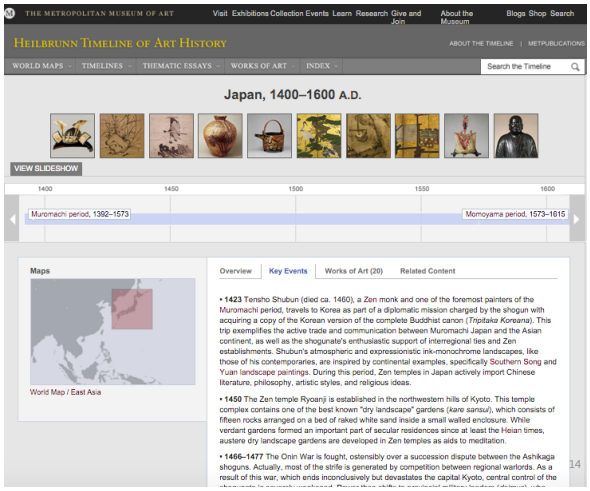
アクセスの意味を再検討

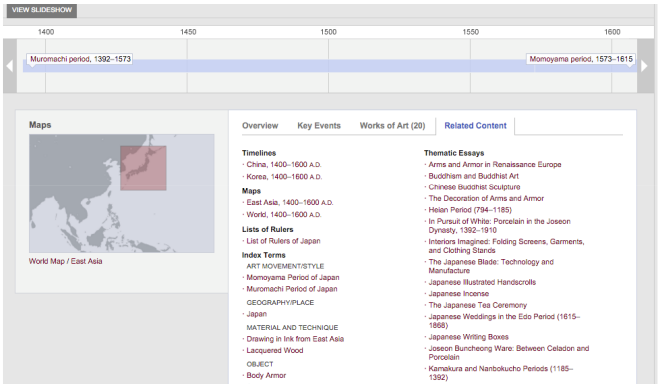
アクセスとはコンタクトして引き出すこと

海外のユーザーと近くなるとは
- データベースを公開するだけではまだアクセス不足
- 日本語以外の言語での解説
- ブラウズの仕組み

様々な利用者を考える必要がある

- データベースも美術館と同じ仕組みで様々な利用者に対応しなければならない
- 一般の方にも日本美術への興味を深める





4 捜索を簡単にする（コルドゥラ・トライマー）
Simplyfy the search (Cordula Treimer)

基礎
Base

- 資料は素晴らしい
  Great reasoures
- 興味深いプロジェクト
  Interesting project
- やる気のある人は参加する
  Enthusiastic people working on them
- MALUI

献策
Suggestions

- 外国語でのサーチが簡単にできるようにインターフェイスを改善することで、利用者が増える。
  Providing an easy search screen in other languages will lower the threshhold to the use of your resources.
- 優れた資料をもっとより多くの人々に公開し、利用を促す。
  Show what you have!

サーチ入力情報
Search Input

- 一つのアクセスポイントから、日本全体のデータベースにアクセスができるようなメタサーチシステムを作ると最大限有効に活用する。
  Unified accesspoints provide maximum search results.
- 漢字とローマ字表記はもちろんのこと、旧漢字や歴史的仮名づかいを現代表記でも検索できるようにする（マッピング）。
  Mapping for kanji and romaji should be provided for old kanji and kana usage.

第3グループ

標準化ルール
Standardization

- 統一したルールに従って、データベースを構築することで、データベース間のセッティングやフォーマットの標準化により情報がより利用しやすくなる。　Unified rules (minimal standard) for cataloquing, meta data producion and data base content lower the barrier between material groups.

19

サーチ出力
Search output

- 世界中で情報にアクセスできるように、メタデータを提供し、そこからそのトピックに関する研究機関を見つけることができるようにする。
  Providing worldwide access, at least to the meta data, chanels researchers towards the insitutions working on the same topics.

20

国際化
Internationalization

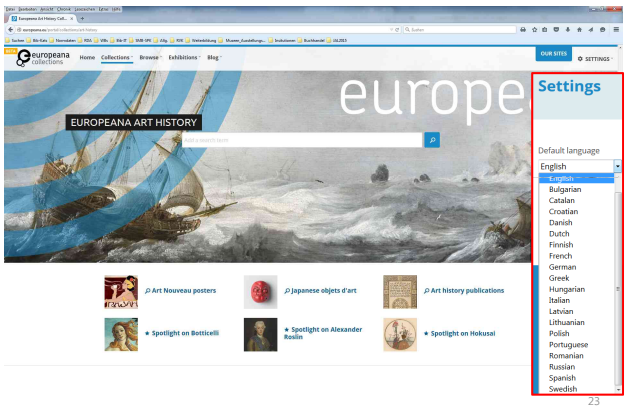
- 日本国内における日本美術史の研究でさえも、国際的観点に立つことで、さらにその研究を深めることができる（内容、形式、方式、宣伝 等 ）。
  Even Japanese art history on Japan can proffit from internationalisation (concerning content, form, method, public relations, etc.).

21

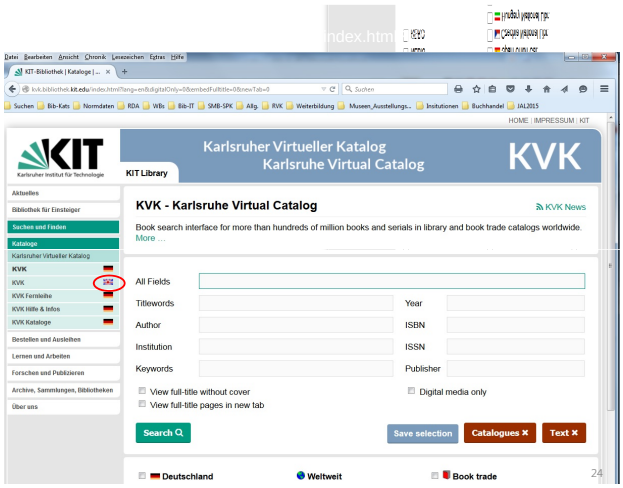
国際化
Internationalization

- 国際雑誌、 ソーシャルメディア 、会議等 に紹介してる。
  Present your resources and research internationally, in journals, social media and conferences.
- 得になると教える・日本語以外の言葉で。
  Do good and talk about it – in more than Japanese.

22

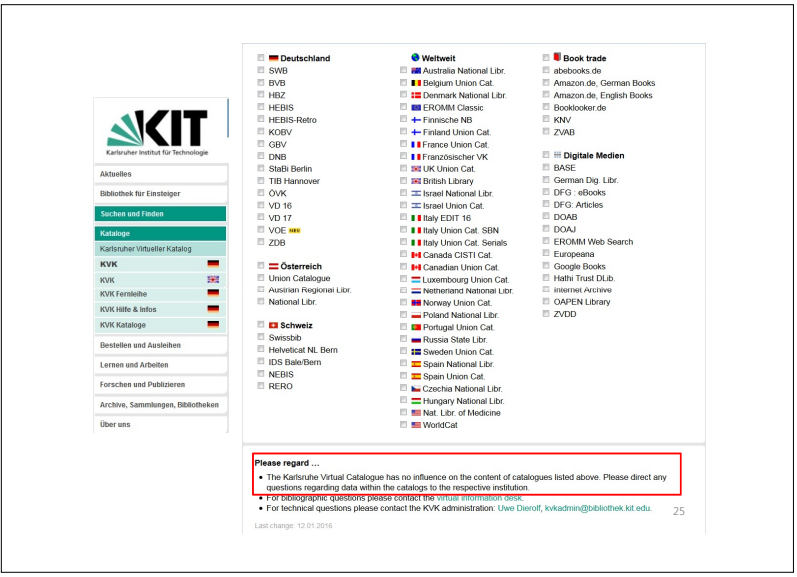


23



24

第3グループ


Karlsruher Institut für Technologie
Aktuelles
Bibliothek für Einsteiger
Suchen und Finden
Kataloge
Karlsruher Virtueller Katalog
KVK
KVK
KVK Fernleihe
KVK Hilfe & Infos
KVK Kataloge
Bestellen und Ausleihen
Lernen und Arbeiten
Forschen und Publizieren
Archive, Sammlungen, Bibliotheken
Über uns
Deutschland
SWB
BVB
HBZ
HEBIS
HEBIS-Retro
KOBV
GBV
DNB
StaBi Berlin
TIB Hannover
ÖVK
VD 16
VD 17
VOE NEU
ZDB
Österreich
Union Catalogue
Austrian Regional Libr.
National Libr.
Schweiz
Swissbib
Helveticat NL Bern
IDS Bale/Bern
NEBIS
RERO
Weltweit
Australia National Libr.
Belgium Union Cat.
Denmark National Libr.
EROMM Classic
Finnische NB
Finland Union Cat.
France Union Cat.
Französischer VK
UK Union Cat.
British Library
Israel National Libr.
Israel Union Cat.
Italy EDIT 16
Italy Union Cat. SBN
Italy Union Cat. Serials
Canada CISTI Cat.
Canadian Union Cat.
Luxembourg Union Cat.
Netherland National Libr.
Norway Union Cat.
Poland National Libr.
Portugal Union Cat.
Russia State Libr.
Sweden Union Cat.
Spain National Libr.
Spain Union Cat.
Czechia National Libr.
Hungary National Libr.
Nat. Libr. of Medicine
WorldCat
Book trade
abebooks.de
Amazon.de, German Books
Amazon.de, English Books
Booklooker.de
KNV
ZVAB
Digitale Medien
BASE
German Dig. Libr.
DFG : eBooks
DFG: Articles
DOAB
DOAJ
EROMM Web Search
Europeana
Google Books
Hathi Trust DLib.
Internet Archive
OAPEN Library
ZVDD
Please regard ...
The Karlsruhe Virtual Catalogue has no influence on the content of catalogues listed above. Please direct any questions regarding data within the catalogs to the respective institution.
For bibliographic questions please contact the virtual information desk.
For technical questions please contact the KVK administration: Uwe Dierolf, kvkadmin@bibliothek.kit.edu.
25
Last change: 12.01.2016